

## 太陽 ASG 拝啓社長殿

経営者のための財務情報 第 434 号

この資料は全部お読みいただいて 105 秒です。

今回のテーマ： 金利正常化への道と企業の課題

### 金利正常化への序曲

資本市場は今回の利上げを、あっさり消化しました。為替相場も同様です。超低金利にかわりはないということでしょう。現段階の利上げは、株式公開企業や為替取引への影響よりも、地方経済や中小企業への影響が大ということ予想させる結果となりました。金利政策以外の抜本策も必要です。

さて、金利の正常化にとどまらず、バブルの後遺症を克服し、健全な成長路線を取り戻すには、改革の断行と同時に、環境変化への対応が不可欠です。とくに、その間に急激に進展したグローバリゼーションを、経済活動のインフラに定着させていくことが基本的課題です。日銀の利上げに対する 22 日付英フィナンシャル・タイムズ（以下 F・T）の社説が、小さな記事で紹介されました（2007.2.23 日経新聞）。33 行 360 字のこの短い社説紹介に、日本の特徴と取り組むべき課題が凝縮しています。

#### F・T「副総裁一人が反対したのは、健全に議論しているという証拠だ・・・」

ほとんどのメディアが、総裁・副総裁 3 名の執行部で票が割れた！と指摘しましたが、議論が健全になされたという多面的見方があるでしょう。

#### F・T「情報が洩れたのは残念だった・・・」

F・T は、この規律のゆるみが政策の一貫性を失わせ、市場を動揺させている。と、厳しく指摘しています。今回この問題は、軽い扱いを受けていますが、決定的に重要な局面での情報漏洩を大問題化しない不思議は、今後、容赦されない環境に移行するでしょう。これに対応するには、「人と仕組み」の全組織的取り組みが不可欠です。

#### F・T「今後も政策決定の基準はあいまいなまま・・・」

曖昧さへの取り組みには、なにを重視しているのか、決定のプロセスはどのような体制か、ディスクロージャの仕組みどうか。日銀の問題でなく、個々の経営体にとって、ステーク・ホルダーの信認を得るために不可欠であり、日本経済が崩壊と停滞の遅れを取り戻し、前進するための必須要件です。

#### F・T「日銀は政策決定の規律と市場への信頼を修復する必要がある・・・」

米国型、英国型、EU 型それぞれ中央銀行の流儀は異なりますが、先進経済諸国の重要メンバーとして、日本型の規律、市場との信頼確立が望まれます。課題は、個々の企業にも当てはまります。

### お見逃しなく！

#### 今後の課題：リスクマネジメントと内部統制

上掲の課題の共通項は「リスクマネジメント」です。目下、企業社会で最大の懸案となった内部統制は、リスクマネジメントを推進するエンジンです。内部統制には 4 つの「目的」があります。

- ①業務の有効性・効率性
- ②財務報告の信頼性
- ③事業活動に関わる法令等の遵守
- ④資産の保全

それを達成するための要件は以下 6 つの「基本的要素」です。

- |            |        |          |
|------------|--------|----------|
| ①統制環境      | ③統制活動  | ⑤モニタリング  |
| ②リスクの評価と対応 | ④情報と伝達 | ⑥IT への対応 |

（元企業財務課長大西又裕教授\* 太陽 ASG エグゼクティブニュース 2007 年 1 月号論稿 他\* 太陽 ASG 監査法人監修「プロフェッショナル・リスクマネジメント」中央経済社刊その他）